

指導先生: 砂川裕一

日本の地名

日本の地名とその由来

イヴァナ・モグシュ
社会情報学部
日本学/地理学

はじめに

旅行をした時など、面白い地名に出会い、「どしてこんな地名が?」「この地名にはどういう意味が隠されているのだろうか?」などと不思議に思うことがある。私にとって世界地図を見ることは楽しいことであるし、いろいろな場所を探しながら、よくその土地の名前の由来について考える。

特に日本の地名研究は、漢字のおかげで、ヨーロッパの地名研究より興味深く、非常に面白いと思う。日本の地名はそもそも、その土地の地形や、特産物、生息する動植物、幕府や藩の行政機関、神社や城といった建物、住んでいた人々の職業身分、および出来事などいろいろなことに由来していることが一般的です。

つまり、地名にはその土地の地理などの歴史が集約されていると言ってもよいでしょう。日本に興味を持っている私が、日本のことに関して更に理解するために、日本にある地名についての勉強を始めた。

ここではでは日本のいろいろな地名について、その語源と由来、歴史、地理的変遷などについて簡単な解説をしたいと思う。

由来による日本地名の分類

日本の地名のほとんどは、もともとあった自然や、特定の自然物からとられた字を含む。それらの地名は比較的古くに名付けられたものによく見られる。それらに対して、比較的新しい地名は、人工物や無形物（文化や言い伝えなど）を由来とするものが多い。

民族が背景の地名

現在の日本の島々には、昔から様々な民族が存在していた。その民族はそれぞれの違った言葉で、それぞれが住んでいた土地を名付けた。

アイヌ語の地名

現在の北海道には、もともとアイヌ人が居住しており、彼ら自身の言葉（アイヌ語）でそれぞれの土地を呼んでいた。北海道にある地名は、その歴史からアイヌ語の関係した名前がとて多く、北海道の市町村のうちの約80%が、アイヌ語に由来しているといわれている。そして北海道では、もともとあった地名が現在までそのまま残されている場合が多い。

アイヌの地名は、その土地の環境や形状を素直に表現したものが多いが、アイヌは文字を持たないため文字によって表記されることはなかった。

北海道に鉄道が初めて敷設された後、物資・旅客輸送のために道内各地に鉄道路線が開設され、駅も増えていった。駅名は駅の所在地の地名に由来するものが多かったため、地名同様にアイヌ語由来の土地名を駅名としたものも多く見られる。

その他にアイヌ語が深く関わっていると思われる土地名として、「ナイ」が使われた地名があるが、これは北海道では「川」を意味する。ナは「水」、イは「位置を示す接尾語」である。日本の古語に川や水を意味するナイはないので、他の言語による起源が考えられる。ナイの地名が川を意味しているということは、その地形からすぐにわかることで、その例は北海道で特に多い。

次にナイという地名の分布を見ると、北海道のほかに、東北地方にも多い。

また、「ホロ」(ポロ)はアイヌ語で「大きい」という意味で、北海道には「美幌」(びほろ)や「幌別」(ほろべつ)「札幌」などの地名がある。日本語にもホロがあつて、矢を防ぐための一種の武具で、この意味の地名例には、松江市の母衣町などがあるが、一般にはホラ(洞)と同根のホロである。岩手県の「母衣綿」は「洞和田」と考えられる。そしてこのホロの分布を見ると、北海道に特に多く存在している。

そして、北海道にある同じアイヌ語が由来の地名として、北海道の登別(のぼりべつ)がある。北海道には、この「登別」を始め、「紋別」(もんべつ)や「女満別」(めまんべつ)などもある。このように「別」のつく名前が多いが、こ

の「別」は、アイヌ語では「ペツ」であり、「川」という意味がある。それが大和言葉の「べつ」という発音に変わり、「別」という漢字があてられた。そして「登別」の語源は「ヌプル・ペツ」であり、「水の色の濃い川」という意味である。白く濁っていた登別川が流れる土地という意味で付けられたといわれている。

朝鮮語の地名

アイヌ語の他にも、朝鮮語が反映された地名も多々ある。その例として、観光都市としても有名な「奈良」がある。これは朝鮮語で「国」という意味の「ナラ」が由来だ。大陸から渡って来た人々が、この土地に住んだことからそう呼ばれたといわれているのだが、かつて「ナラ」と呼ばれる地域は全国に存在したらしい。この他に朝鮮語が由来の地名として、埼玉県の「新座市」（にいざし）という場所がある。この「新座」という地名の由来は、八世紀に朝鮮の「新羅」（しらぎ）からの渡来人のために設置された「新羅郡」という場所があった。その後「新羅郡」は「新座郡」に改称され、新座という地名が誕生した。

琉球語の地名

沖縄にあるほとんど地名は琉球語の由来が背景にあり、独特な読み方がある。

沖縄の地名を漢字で書くと、漢字と発音が合わないことが多い。

例えば、琉球語で「城」というのは「グスク」という。そして、東は「アガリ」西は「イリ」という読み方がある。

例えば、東山（あがりやま）西原（いりばる）中城（なかぐすく）などという町が存在する。

自然が背景の地名

伝統的な村落の立地は、地形や水利、日当たりなどの自然条件と関係があり、ことが明らかになった。過去の人々は自然環境や、普段の生活や経験を地名に反映させていたと思われる。

そのような自然関係地名のほとんどは三つの種類に分けることができる。一つはその地域の地形や地質の状況を反映させたもの。もう一つはその地域の特定の植物やその分布状況を反映させたもの。そして、もう一つはその地域に当時生息していた野生動物や家畜反映させたものである。

その地域の自然、特に地形や地質が反映されている地名の例として、岩手県上閉伊郡（かみへいぐん）大槌町（おおつちまち）に、「吉里吉里」という場所がある。この地名の由来は、昔この白い砂浜がつづく海岸線を歩くと、「キリキリッ」と、

美しい音をたてたことにちなんでいるらしい。また、この名前はアイヌ語である可能性も高く、「歩くとキリキリと音を出す浜」、「白い砂浜」という意味があるらしい。そんな砂浜も、現在では汚れにより、そのような美しい音を聞くことはできなくなってしまった。

そして徳島県三好氏に、「大歩危」（おおぼけ）という険しい渓谷があり、数キロ下流の「小歩危」（こぼけ）とともに、「大歩危・小歩危」とひとくくりにされることも多いそうだ。「大歩危」は、「大股で急いで歩くと危険」、そして「小歩危」は、「小股でゆっくり歩いても危険」なため、そう呼ばれるようになった。そして群馬県には、「子持山」（こもちやま）という山がある。これは、中央の峰を周囲の尾根が取り囲んでいる姿が、子供を抱えているように見えることからそう名付けられた。

その地域にあった草木などを由来とする地名の例として、大阪府にある「薬樹山」という山がある。昔からこの土地には薬草が多かったので、こう名付けられた。そして、その地域に生息した動物などを由来とする地名として、東京都に「銭州」（ぜにす）という場所がある。ここは昔から魚類が豊富に獲れ、「あそこに行けば沢山の魚が獲れ、銭が稼げる」ということから、「銭州」と呼ぶようになったらしい。

そして青森県の弘前市には、「狼森」（おいのもり）という場所がある。青森県をはじめ、秋田県、岩手県、そして宮崎県の各所に「狼」の字が付く地名が沢山ある。そしてこれらのほとんどの場所で、「狼」の字を、「おいぬ」や「おいの」、そして「おい」などと読んでいる。これは、昔ニホンオオカミのことを「お犬」と呼んでいたからである。これらの地名は、東北地方のあちこちにオオカミが生息していたことを裏付けているといえる。

文化が背景の地名

文化地名とは自然地名に対して、人間によって作られたものが反映したものである。例えば街道、峠などの交通地名。そして生産、職種によする経済地名などである。

文化的背景のある地名の中で、交通に関係する地名の例として、石川県加賀市にある「動橋」（いぶりばし）がある。「いぶる」とは、「動く」とか、「動かす」、「揺れる」という方言で、この橋は昔ここを流れる動橋川に架けられていた。この橋が通行人が渡るたびに大きく揺れるので、このように名付けられた。

そして一般的に割と新しい地名として、愛知県にある「セントレア」がある。これは中部国際空港、通称セントレア空港が語源になった空港の所在地名で、「セントレア」という名前が付いた。この名前は全国の一般公募で選ばれた名前、中部を表す「CENTRAL-セントラル」と、空港や航空のイメージの「AIR-エア」をあわせて「セントレア」とした造語である。

兵庫県にある淡路島（あわじしま）は、京の都から四国へ向かう船が、阿波国の港に入った。その阿波への道（路）の途中にこの島があったため、「阿波路」と書い

て「あわじ」と呼んでいたのが、やがて「淡路島」という名前に変わったらしい。その地域の経済を反映した地名の例としては、京都府京都市の太秦があげられる。時代劇の撮影などで知られ、「東洋のハリウッド」と呼ばれているこの場所は、この場所を本拠にした渡来人の「秦氏」（はたうじ）に由来するとされている。民衆をたくさん引き連れて朝鮮半島からやってきた秦氏は、養蚕（ようさん）、機織り（はたおり）、そして土木などの高い技術をもっていたため、朝廷に重用されるようになった。そしてその秦氏の、とくに長を指す別称が太秦だったとされる。その他にも、神奈川県秦野市（はだのし）をはじめ、「秦」「羽田」「波田」「幡多」「幡」などの付く地名は、いずれも秦氏に関係した土地だといわれている。愛知県海部郡（あまぐん）にある七宝町（しっぽうちょう）は、工芸品の七宝焼を意味しており、当時での生産が盛んだったことから付いた地名だ。京都市にある「百足屋町」（むかでやちょう）という場所があるが、この名前は新町通にあった「百足屋」という豪商の名にちなんだものらしい。この百足屋は、祇園祭に際して毎年町内に山車を立てただけではなく、その山車の豪華な装飾など全て、百足屋一軒でその費用をまかなっていたほどの財力があつた。文化が背景の地名は、他にも信仰、社寺等に関わる宗教地名、そして人名地名などもある。

外国の地名

私はヨーロッパで生まれ育ったので、そのヨーロッパをはじめとする他の外国の地名を日本の地名と簡単に比べ、幾つかの例をあげてみたいと思う。

ヨーロッパや他のアジアの国々の地名の由来を見ると、日本と同じ自然的、宗教的、経済的などの由来がある。ヨーロッパやアフリカ(得に北アフリカ)などにたくさんみられる地名は、ローマ帝国や古代ギリシャから影響を受けたものが多い。例えばヨーロッパという名前は、ギリシャの神話からきたものと言われている。そしてアフリカだが、北アフリカにアフリという名前の民族が存在し、ラテン語でアフリの国という意味がある。また、ギリシャ語の *aphrike* とラテン語の *aprica* は「寒くない」という意味がある。どの説が正しいかは定かではないが、この他にもいくつかの説がある。

それに対して、新大陸(アメリカ、オーストラリア)にある多くの地名は人名から来ている。例えば、New York はイギリスの York という人の名前を基に付けられたらしい。

どこの国でも、地名の由来を知ること、その土地の自然や歴史がわかるのは同じことのようにだ。

面白地名

様々な地名の由来についてを調べていくうえで、いくつか面白い地名があったので、それらの地名もここで簡単に紹介したいと思う。

ヤリキレナイ川

北海道夕張郡由仁町にある小さな川。由来はアイヌ語で、意味は「魚のすまない川、片割れの川」という説がある。

ワルイ川

北海道山越郡長万部町にあるこちらもまた小さな川。そばにポンワルイ川というのもあり、「ポン」とはアイヌ語で「小さい」という意味。小さくてもワルイはワルイ。他にもゴクドウ川というのものもあるらしい。

鼻毛 (はなげ)

福島県福島市飯坂町湯野字鼻毛。相馬市尾浜字には「牛鼻毛」というのがあり、群馬県前橋市に「鼻毛石町」、新潟県上越市大島区に「鼻毛峠」（近くには「鼻毛の池」）、宮城県仙台市泉区実沢字に「鼻毛橋」というのがある。

貧乏山 (びんぼうやま)

北海道亀田郡七飯町にある山。

このように、地名に興味がなくても、おもわず笑ってしまい、「どうしてこのような名前になったのだろうか？」と疑問に思う人は多いであろう。

これらも地名の持つ魅力であり、面白さだと思う。

まとめ

言うまでもなく、地名は人々の生活の中に限らず、場所を示す記号であり、そして土地の地理、歴史、環境を示す、言語による文化の宝物である。

このレポートを書きながら、地名学というのはとても広く深いものだと分かった。そして、今まで日本の歴史や地理などに関して分からないことも、多々明らかになった。日本の地名について様々な情報を読めば読むほど、私の地名に対する興味が増していった。これからも日本の地名について更に研究をし続け、クロアチアやスロベニアなど、外国の地名とも比べてみたいと思う。

このレポートでは、日本の地名について基本的な情報を集め、自分の考えかたや知識を広げることが目的である。

日本の地名の中には興味深い由来や意味のある地名がたくさんあるということがよく分かった。そしてその日本の地名の面白さには、その意味と由来だけではなく、もう一つの面白い面がある。それは、漢字の使い方である。漢字のない国から来た私にとって、日本の地名について勉強する時には、その漢字を読み、理解することが一番大変である。日本の地名について研究をすると、少し変わった地名の読み方がよく出てくる。そのような地名は難読地名という。漢字が苦手な私にとって、それを理解するには非常に難しだが、それらの難読地名出会うたびに、その地名や地名の歴史について知りたい気持は更に高まる。そして、これら地名のことを更に理解するためには、自分の日本語能力を上達させる必要がある。

参考文献

- 吉田金彦・糸井通 浩『日本地名を学ぶ人のために』世界思想社 2004年11月1日、50-72 ページ
- 鏡味完二・鏡味明克『地名の語源』角川小辞典 13、角川書店 昭和 52、1-30 ページ
- 日本博学倶楽部『日本の地名意外な由来』PHP 文庫 2007年6月18日

インターネットの参考文献

http://en.wikipedia.org/wiki/Place_name_origins (2009.9.2.)

<http://laugh-and-grow-fat.hp.infoseek.co.jp/hpn/jpn.html> (2009.8.29.)

<http://ku0811.hp.infoseek.co.jp/> (2009.8.28.)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/Category: 地名](http://ja.wikipedia.org/wiki/Category:地名) (2009.8.23.)

<http://www.nihontabi.com/chimei.htm> (2009.8.23.)